

# 岡崎市 国際化推進基礎調査業務

調査結果報告書

令和元年 12 月

岡 崎 市





## 目次

---

I	調査概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象及び調査方法	1
3	調査票の回収状況	1
4	標本誤差	2
II	調査結果の概要	3
III	外国人市民の調査結果	4
1	回答者の属性	4
2	仕事について	8
3	住まいについて	9
4	日本語について	10
5	生活情報について	14
6	日常生活について	15
7	健康保険と年金について	18
8	教育・子育て・家族について	20
9	防災について	24
10	コミュニティ通訳員について	25
IV	日本人市民の調査結果	26
1	回答者の属性	26
2	外国人市民との共生について	28
3	国際理解について	31

## I 調査概要

### 1 調査の目的

地域特性を考慮し、岡崎市の国際化推進計画に係る取り組みを展開していくために、国際化に関する市民意識と在住外国人の生活状況をアンケート調査により把握することを目的とする。

### 2 調査対象及び調査方法

#### ①調査対象者

##### (1) 外国人市民

韓国・朝鮮国籍を除く満 18 歳以上の外国人市民全員から抽出 2,000 人

##### (2) 日本人市民

満 18 歳以上の日本人市民から抽出 1,000 人

#### ②調査期間

・令和元年 9 月 4 日から令和元年 9 月 24 日

#### ③調査方法

- ・郵送配布、回収
- ・外国人市民の調査票は、外国人版（ポルトガル語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、スペイン語、英語、インドネシア語、タイ語、ネパール語の 9 言語の翻訳）とルビ付き日本語版を使用しました。

#### ④調査実施機関

・岡崎市 社会文化部 国際課

### 3 調査票の回収状況

	外国人市民	日本人市民
標本数	2,000 (100.0%)	1,000 (100.0%)
回収数 (率)	445 ( 22.3%)	400 ( 40.0%)
有効回収数 (率)	444 ( 22.2%)	397 ( 39.7%)

## 4 標本誤差

日本人市民意識調査は、母集団である 18 歳以上の全市民から一部の標本を無作為に抽出して行いました。この調査結果からもとの全体の値を推定する標本調査です。この“標本調査の結果”と“全数調査の結果”との差が標本誤差です。今回の調査では下記の式で標本誤差を求めることができます。

$$\text{標本誤差 } \sigma = \pm 2 \sqrt{\frac{P(100-P)}{n}}$$

P: 回答率(%)      n: 有効回収数(件)

日本人市民意識調査の表は、上式に n と P の値を代入して標本誤差を求め、作成したものです。

信頼度95% (100回中95回はこの範囲に収まる) の場合

	有効回収数(件)	回答率 (%)									
		5% (95%)	10% (90%)	15% (85%)	20% (80%)	25% (75%)	30% (70%)	35% (65%)	40% (60%)	45% (55%)	50% (50%)
日本人市民	397	2.2	3.0	3.6	4.0	4.3	4.6	4.8	4.9	5.0	5.0

この表の見方について例を挙げると、「日本人市民意識調査全体の回収数が 397 人であり、ある設問の 1 つの選択肢の回答率が 50%であった場合、全数調査との誤差の範囲は 95%の確率で±5.0%以内であり、実際の回答率は 45.0%～55.0%の範囲にある」と意味づけられるものです。

また、外国人市民意識調査は、全数調査のため、標本誤差には該当しません。

### 6 報告書の見方

- ・グラフ・表中の「n」はアンケートの有効回収数を示しています。
- ・比率はすべて百分率(%)で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100.0%にならない場合もあります。
- ・複数回答の場合、回答の合計比率が100.0%を超える場合があります。
- ・グラフ・表として示したもののうち、無回答の回答数が0の場合は「無回答」の表示を省略しています。また、選択肢の文章を簡略化してある場合もあります。

## Ⅱ 調査結果の概要

### ◆ 外国人市民

#### 4 日本語について (P. 10)

どのくらい日本語ができますかの設問では、聞く力と話す力で「まったく、分からない（話せない）」と回答したのが、ともに4.5%に対して、読む力で「まったく、読めない」が11.9%、書く力で「まったく、書けない」が17.3%となっています。会話に必要な『聞く』、『話す』ができないと回答した人が少ない一方で、学習や文字でのやり取りに必要な『読む』、『書く』ができないと回答した人の割合が多くなっています。

また、日本語教室で日本語を学びたいですかの設問では、約7割が「日本語を学びたい」と回答していることから、学習意欲の高さがうかがえます。

#### 6 日常生活について (P. 15)

地域の行事への参加は、約4割が「全く参加していない」と回答しています。

しかし、日常生活で、特に困ったことはなんですかの設問では、「市役所などから届いた手紙が読めない」や「病院で言葉が通じなかった（通訳がいなかった）」の割合が多いことから、行事の告知が読めないことで、参加していない人が多いのではないかと考えられます。

### ◆ 日本人市民

#### 2 外国人市民との共生について (P. 28)

岡崎市に在住する外国人が増えることに対してどう思いますかの設問では、「外国の言葉・文化・習慣を知る機会が増えるので、望ましい」が最も多く、次いで「外国人と交流できるので、望ましい」、「治安が悪化する可能性があり、望ましくない」の順となっています。

全体として『望ましくない』よりも『望ましい』と回答している割合が多くなっています。

また、外国人との円滑な共生を推進していくためには、どのような取り組みが重要だと思いますかの設問では、「地域の規則やごみ出しなど生活ルールを教える」が最も多くなっています。

外国人が増えることを『望ましい』と回答した人が多い一方で、増えることを『望ましくない』と回答している人は、少なくとも約3割いる結果となっています。

#### 3 国際理解について (P. 31)

岡崎市民の国際理解の推進を図るためには、どのような取り組みが重要だと思いますかの設問では、「子どもへの国際理解教育を充実する」が最も多く、次いで「在住外国人との交流の機会を充実する」、「外国人との交流会への開催など国際交流に関する市民活動を支援する」の順となっています。

国際理解を深めるためには、子どもへの教育や外国人との交流の機会の充実が重要と考えられています。

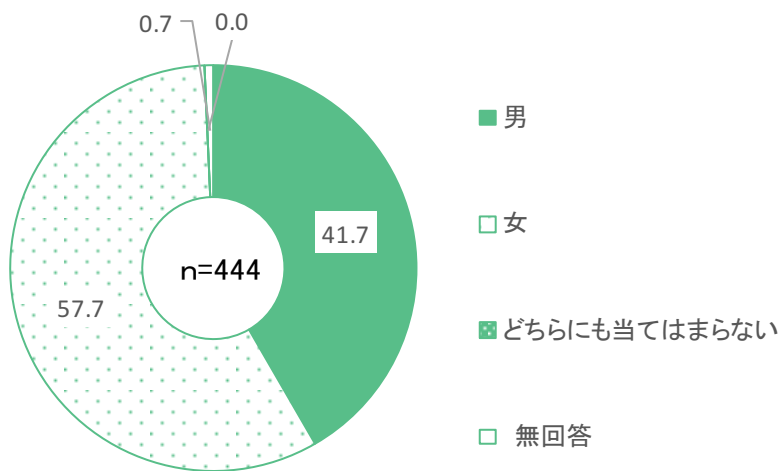
### Ⅲ 外国人市民の調査結果

#### 1 回答者の属性

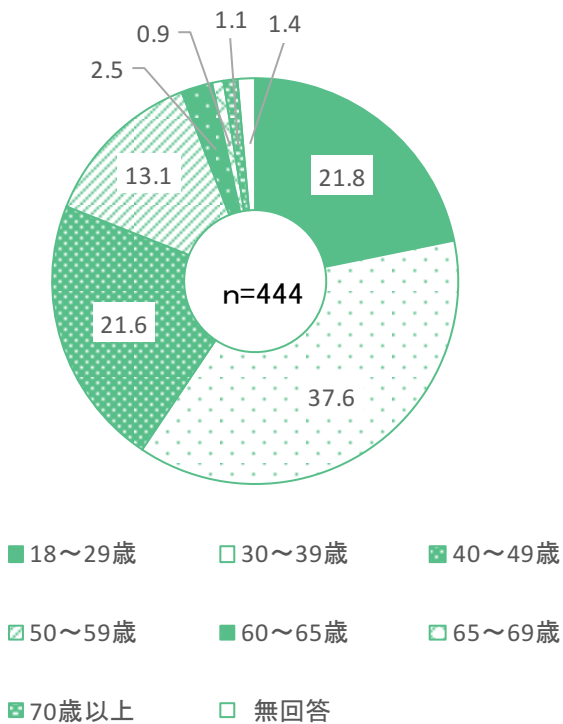
問1 性別    問2 年齢    問3 国籍

- ・性別は、「男性」(41.7%)、「女性」(57.7%) となっています。
- ・年齢は、「30～39歳」(37.6%) が最も多く、次いで「18～29歳」(21.8%)、「40～49歳」(21.6%) の順となっています。60歳以上の人は4.5%のみとなっています。
- ・国籍は、「ブラジル」(31.1%) が最も多く、次いで「中国・台湾」(22.1%)、「フィリピン」(18.0%) の順となっています。

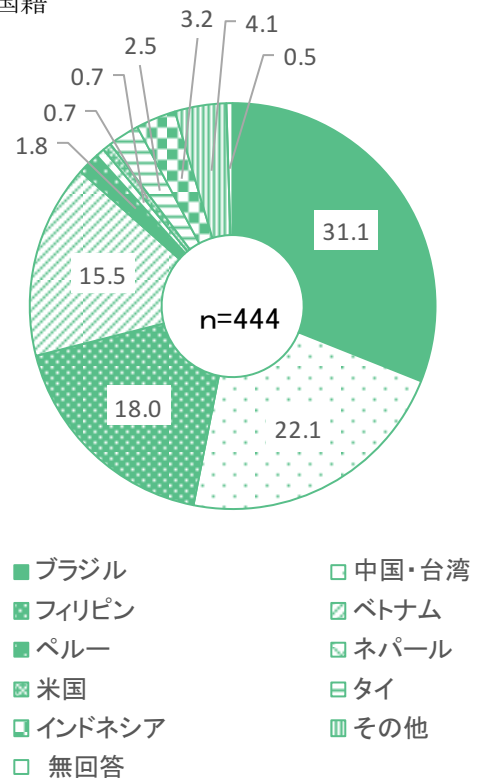
図表 1 性別



図表 2 年齢



図表 3 国籍

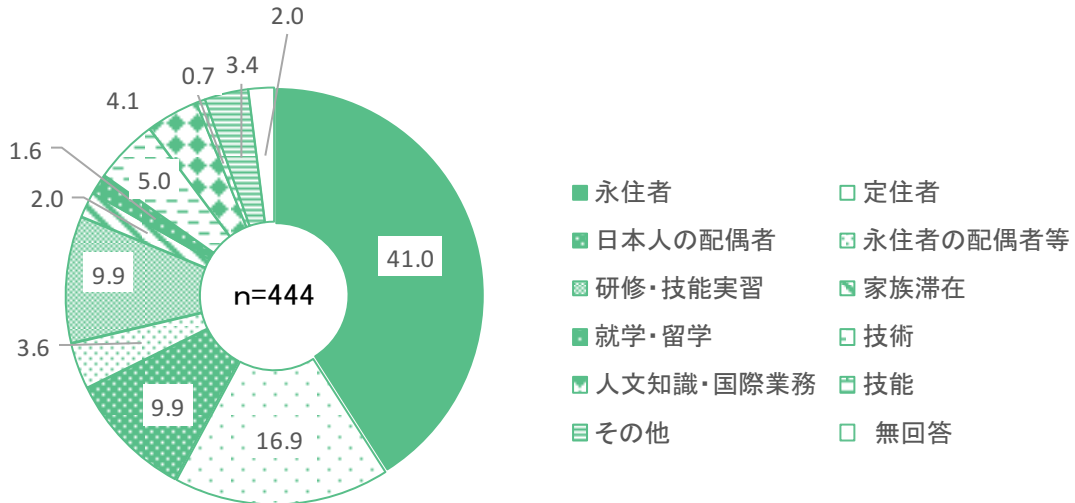




問4 現在の在留資格

- ・在留資格は、「永住者」(41.0%) が最も多く、次いで「定住者」(16.9%)、「日本人の配偶者」(9.9%) と「研修・技能実習」(9.9%) の順となっています。

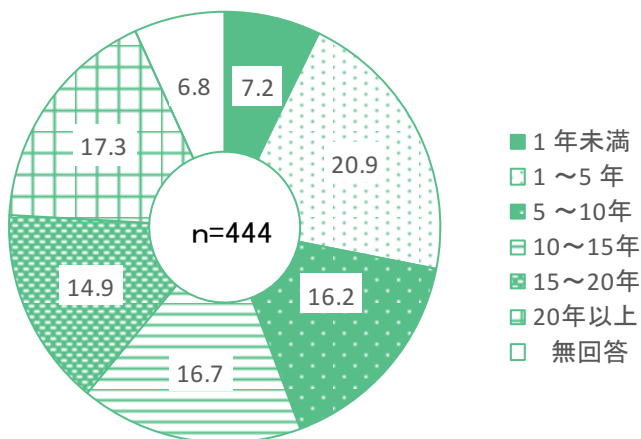
図表 4 在留資格



問5 あなたは、何年日本に住んでいますか？

- ・居住年数は、「1～5年」(20.9%) が最も多く、次いで「20年以上」(17.3%)、「10～15年以上」(16.7%) の順となっています。
- ・約5割 (16.7%+14.9%+17.3%=48.9%) が10年以上日本に住んでいると回答しています。

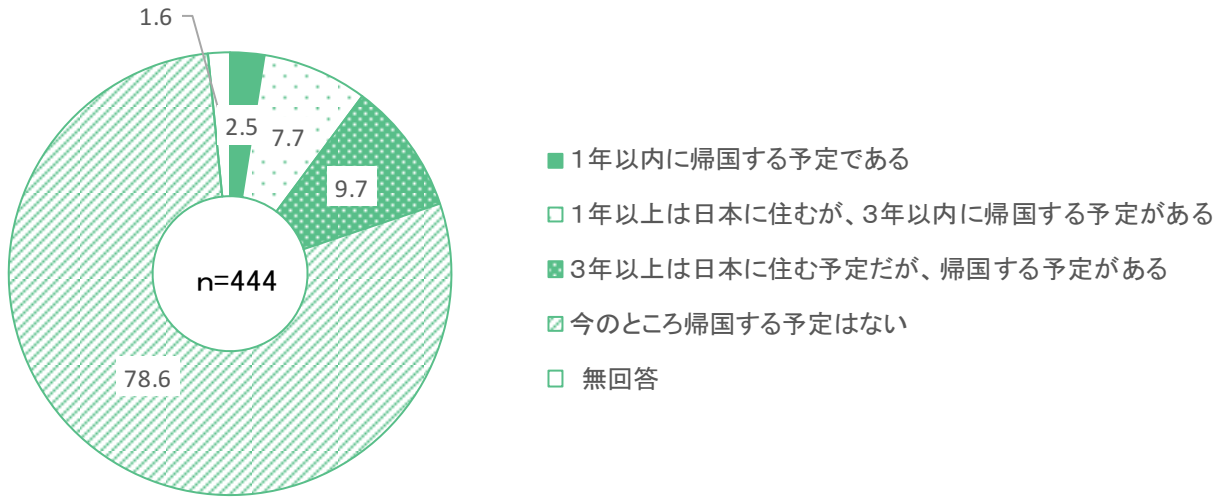
図表 5 居住年数



問6 日本に住むことをやめて、母国に帰国する具体的な予定はありますか？

- 母国に帰国する予定については、約8割（78.6%）が「今のところ帰国する予定はない」と回答しています。

図表 6 帰国予定

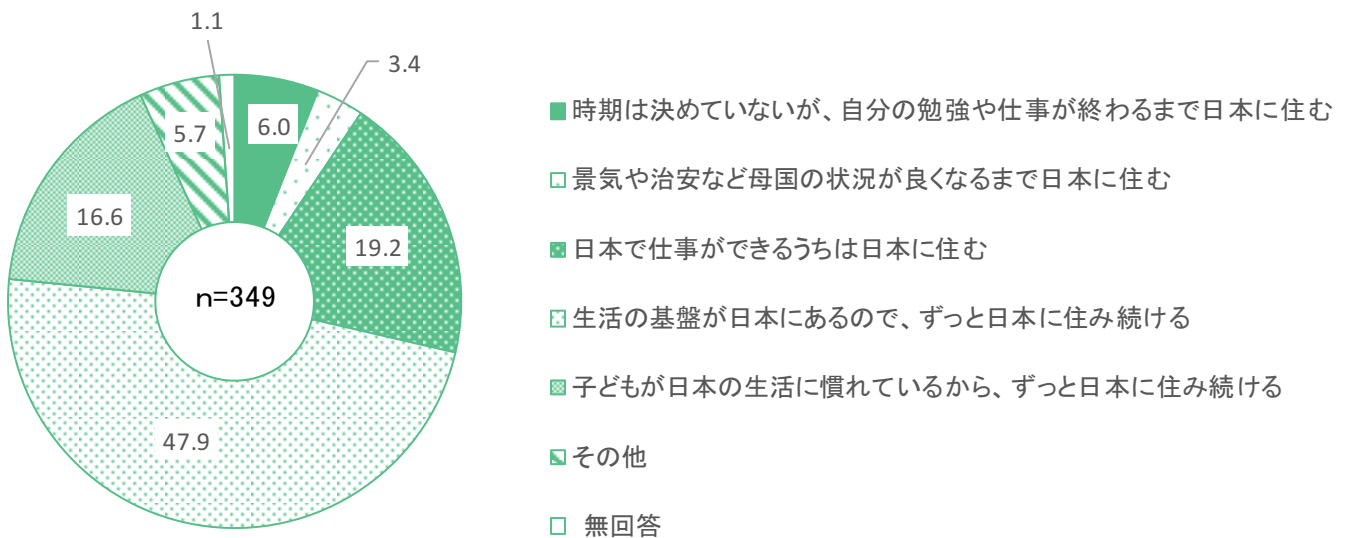


問7 日本での生活を続ける理由は何ですか？

※問6で「今のところ帰国する予定はない」と回答した方のみ

- 日本で生活する理由は、「生活の基盤が日本にあるので、ずっと日本に住み続ける」（47.9%）が最も多く、次いで「日本で仕事ができるうちは日本に住む」（19.2%）、「子どもが日本に慣れているから、ずっと日本に住み続ける」（16.6%）の順となっています。

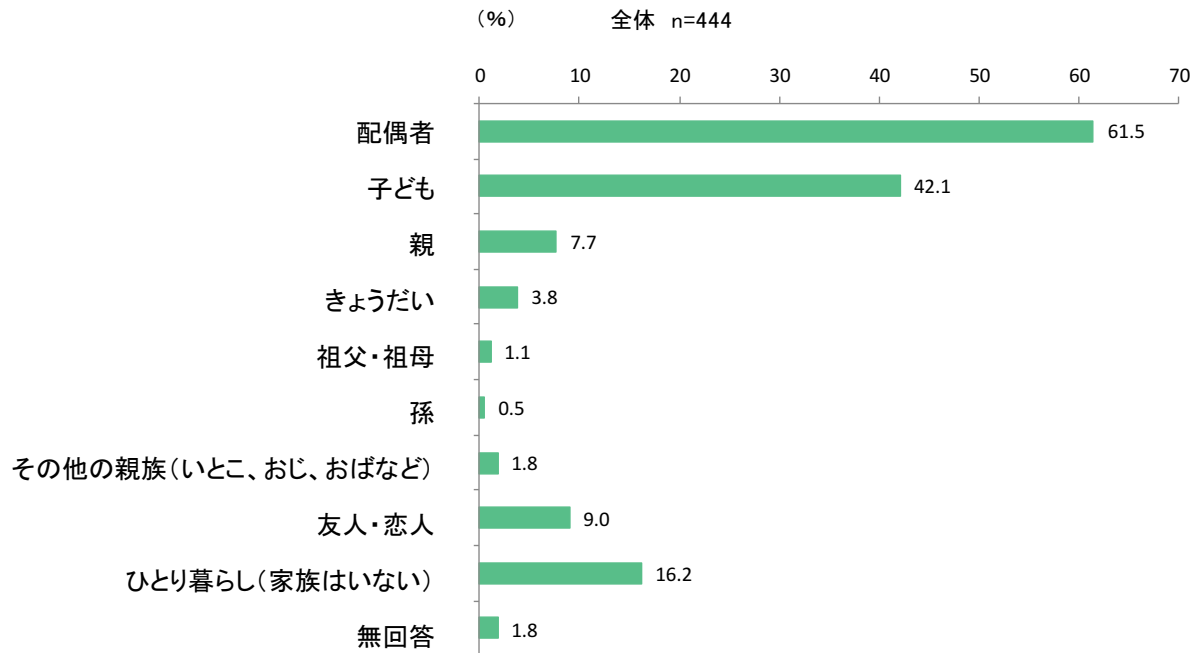
図表 7 日本で生活する理由



## 問8 現在、誰と一緒に住んでいますか？（複数回答）

- 一緒に住んでいる人は、「配偶者」（61.5%）が最も多く、次に「子ども」（42.1%）、「ひとり暮らし（家族はいない）」（16.2%）の順となっています。

図表 8 一緒に住んでいる人

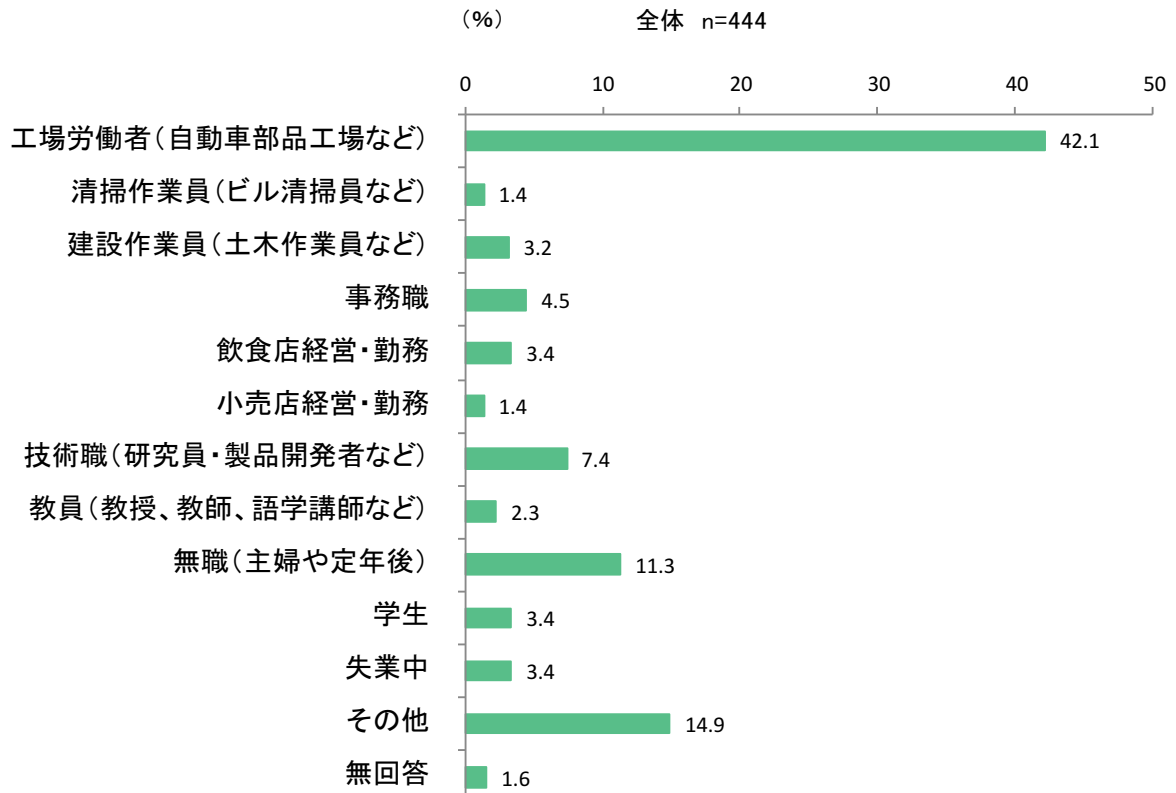


## 2 仕事について

### 問9 現在、どんな仕事をしていますか？

・現在の仕事は、4割以上(42.1%)が「工場労働者(自動車部品工場など)」と回答しています。

図表9 現在の仕事



### 問10 現在の仕事の採用の形態は？

(失業中の方は失業前の仕事について回答)

・仕事の採用形態は、「派遣社員」(27.5%)が最も多く、次いで「契約社員・アルバイト・パート」(26.1%)、「正規社員」(25.2%)の順となっています。

図表10 仕事の採用形態

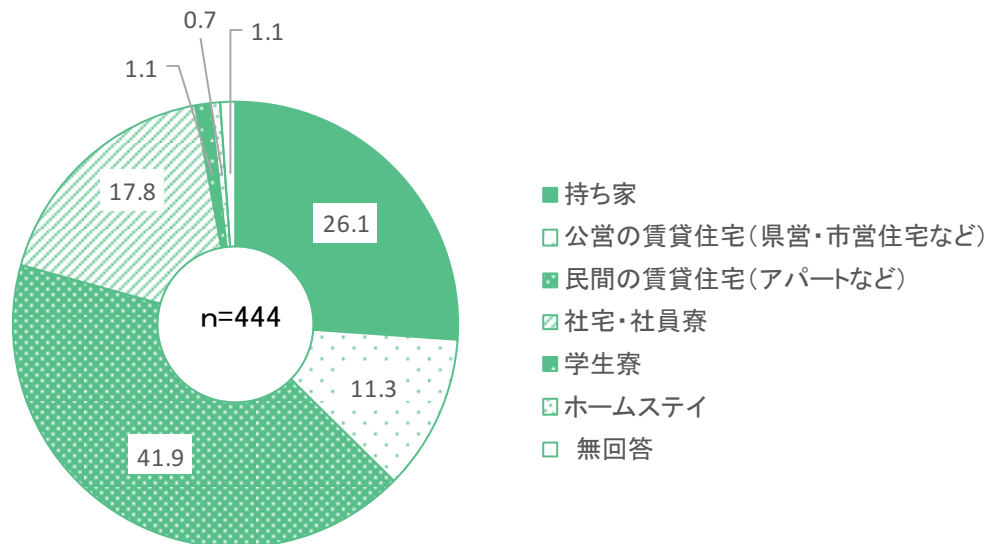


### 3 住まいについて

問 11 現在の住まいの種類は何ですか？

- ・住宅の種類は、「民間の賃貸住宅」(41.9%) が最も多く、次いで「持ち家」(26.1%)、「社宅・社員寮」(17.8%) の順となっています。

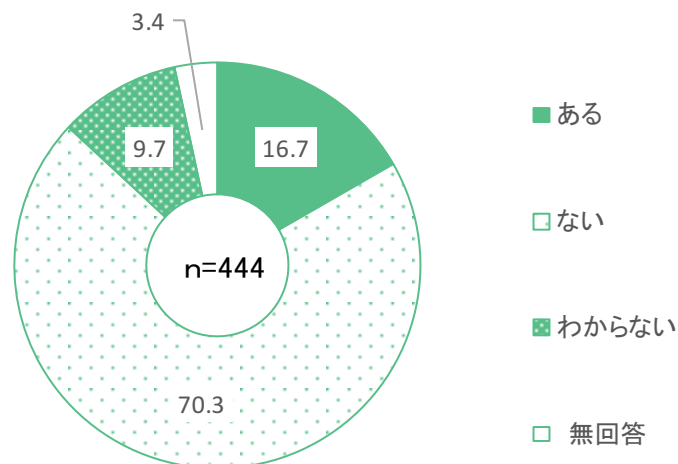
図表 11 住宅の種類



問 12 家探して困ったことはありますか？

- ・家探して困ったことは、約7割(70.3%)が「ない」と回答しています。

図表 12 家探して困ったこと



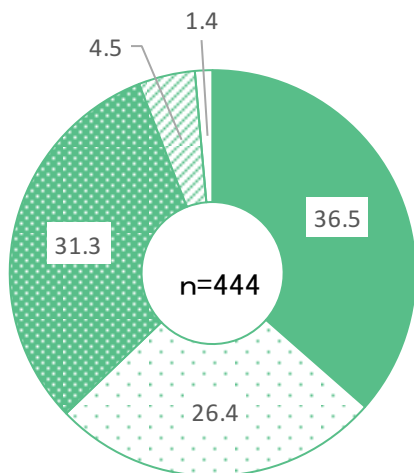
## 4 日本語について

問 13～16 どのくらい日本語ができますか？

聞く、話す、読む、書くについて、それぞれ回答者の力を聞きました。

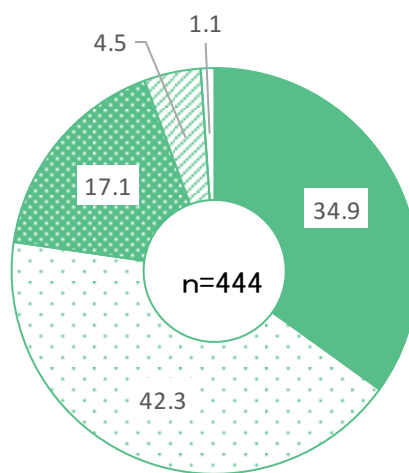
- ・ 聞く力は、「テレビのニュースが分かる」(36.5%) が最も多く、次いで「会話の中で一部の単語が聞き取れる」(31.3%)、「ゆっくり話してくれれば分かる」(26.4%) の順となっています。
- ・ 話す力は、「あいさつなどの日常会話なら話せる」(42.3%) が最も多く、次いで「職場の会議などで自分の意見を発表できる」(34.9%)、「単語が話せる」(17.1%) の順となっています。
- ・ 読む力は、「簡単な漢字・ひらがな・カタカナが読める」(37.2%) が最も多く、次いで「ひらがな・カタカナが読める」(26.6%)、「新聞や雑誌が読める」(22.5%) の順となっています。
- ・ 書く力は、「簡単な漢字・ひらがな・カタカナが書ける」(31.5%) が最も多く、次いで「ひらがな・カタカナが書ける」(29.5%)、「漢字を混ぜて意見等を書ける」(19.8%) の順となっています。

図表 13 聞く力



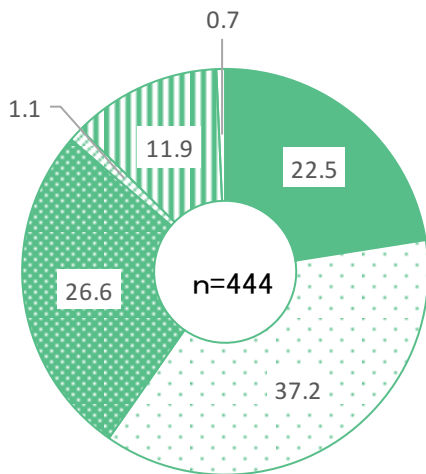
- テレビのニュースが分かる
- ゆっくり話してくれれば分かる
- 会話の中で一部の単語が聞き取れる
- まったく、分からない
- 無回答

図表 14 話す力



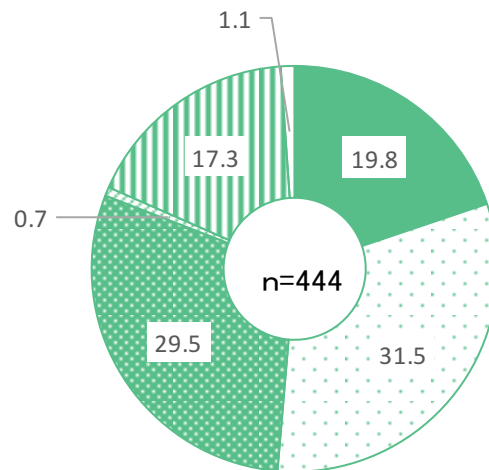
- 職場の会議などで自分の意見を発表できる
- あいさつなどの日常会話なら話せる
- 単語が話せる
- まったく、話せない
- 無回答

図表 15 読む力



- 新聞や雑誌が読める
- 簡単な漢字・ひらがな・カタカナが読める
- ひらがな・カタカナが読める
- 漢字だけ読める
- まったく、読めない
- 無回答

図表 16 書く力

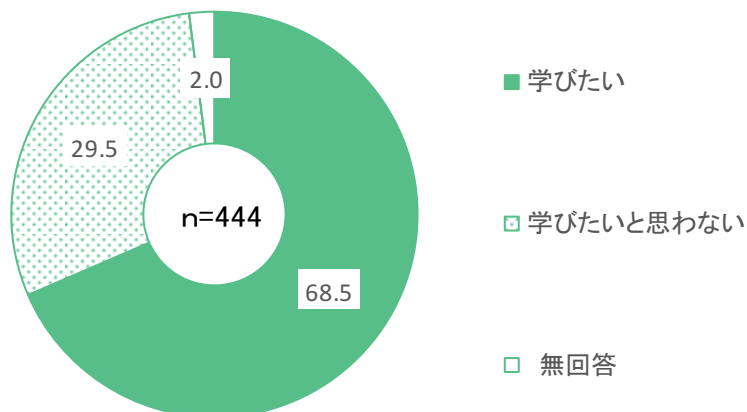


- 漢字を混ぜて意見等を書ける
- 簡単な漢字・ひらがな・カタカナが書ける
- ひらがな・カタカナが書ける
- 漢字だけ書ける
- まったく、書けない
- 無回答

問 17 日本語教室で日本語を学びたいですか？

・日本語への学習意欲は、約7割（68.5%）が日本語を学びたいと回答しています。

図表 17 日本語学習意欲



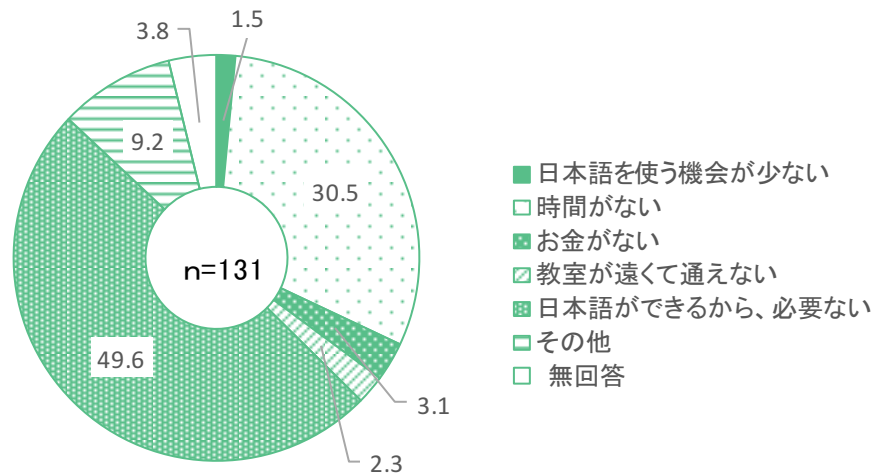
- 学びたい
- 学びたいと思わない
- 無回答

問 18 学びたくない理由は何ですか？

※問 17 で「学びたいと思わない」と回答した方のみ

- ・日本語を学びたくない理由は、約 5 割（49.6%）が「日本語ができるから、必要ない」と回答しています。

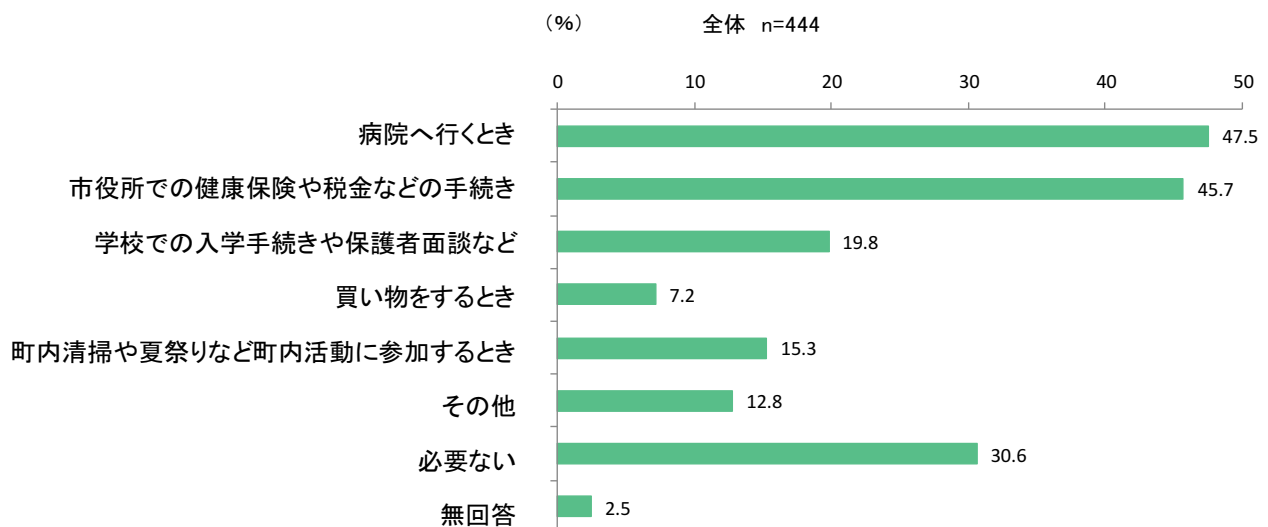
図表 18 学びたくない理由



問 19 どんな場合に通訳や翻訳が必要ですか？（複数回答）

- ・通訳が必要な場面は、「病院へ行くとき」（47.5%）が最も多く、次いで「市役所での手続き」（45.7%）、「必要ない」（30.6%）の順となっています。

図表 19 通訳が必要な場面



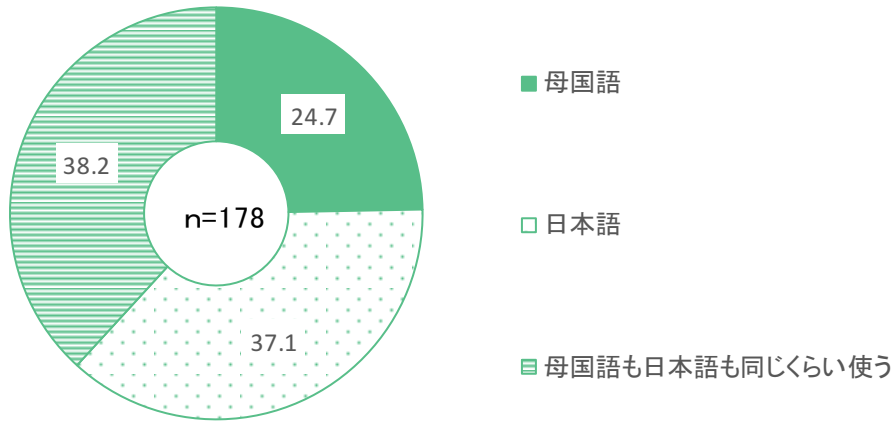


問 20 お子さんは主に何語を使っていますか？

※15歳以下の子どもがいる方のみ

- 子どもの使用言語は、「母国語も日本語も同じくらい使う」(38.2%) が最も多く、次いで「日本語」(37.1%)、「母国語」(24.7%) の順となっています。

図表 20 子どもの使用言語

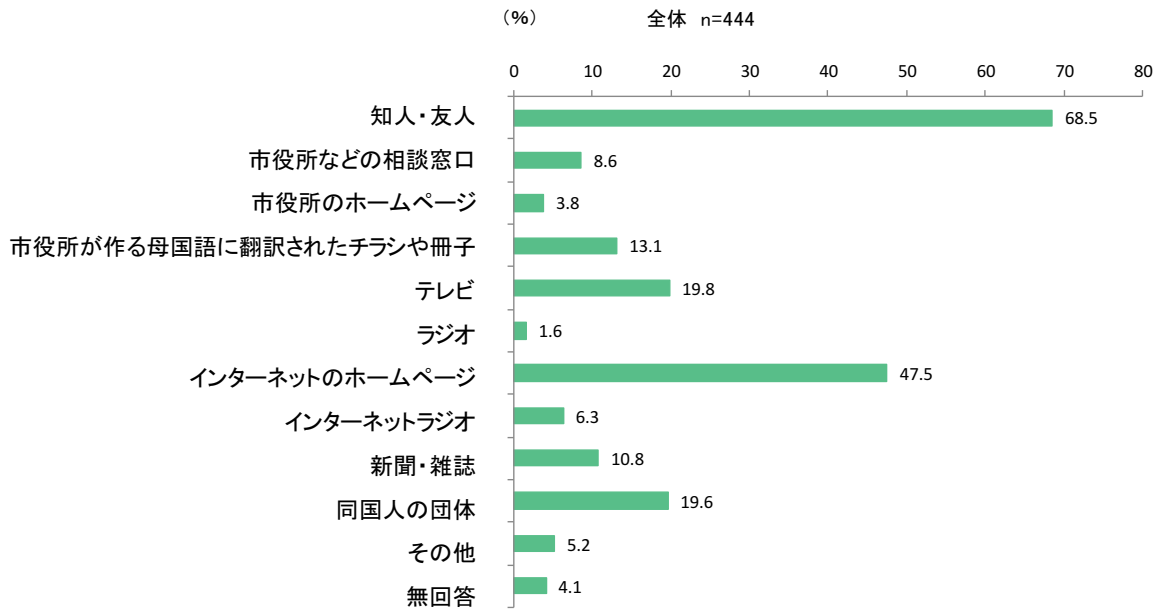


## 5 生活情報について

### 問 21 母国語で生活に必要な情報は主にどこから得ますか？（複数回答）

・母国語の情報源は、「知人・友人」（68.5%）が最も多く、次いで「インターネットのホームページ」（47.5%）、「テレビ」（19.8%）の順となっています。

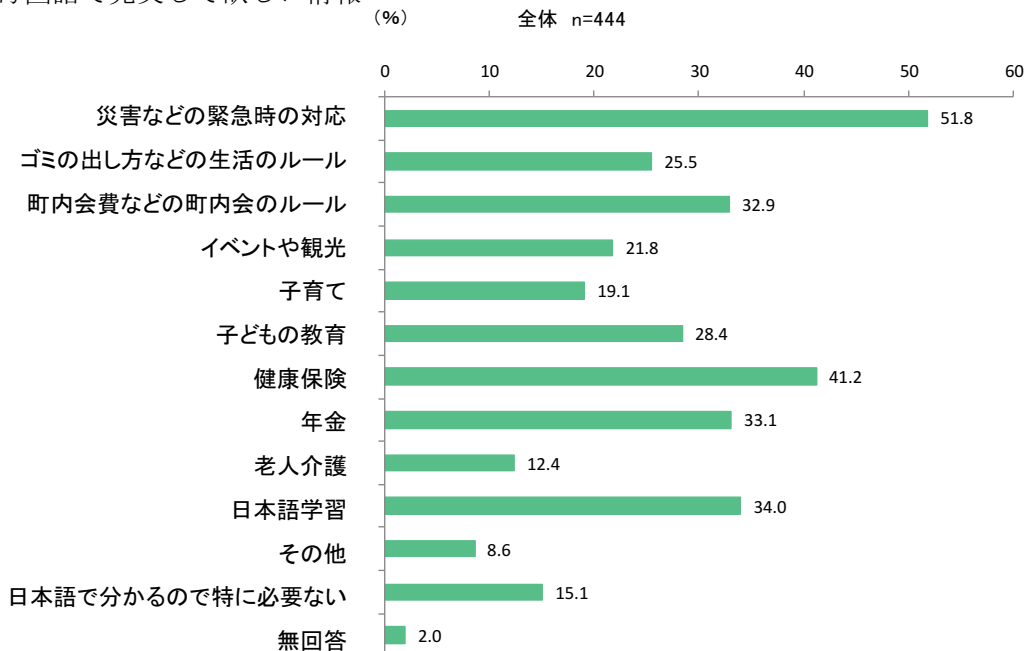
図表 21 母国語の情報源



### 問 22 母国語（または自分の分かる言語）での情報提供をもっと充実して欲しいものはどれですか？（複数回答）

・充実して欲しい母国語言語は、「災害などの緊急時の対応」（51.8%）が最も多く、次いで「健康保険」（41.2%）、「日本語学習」（34.0%）の順となっています。

図表 22 母国語で充実して欲しい情報

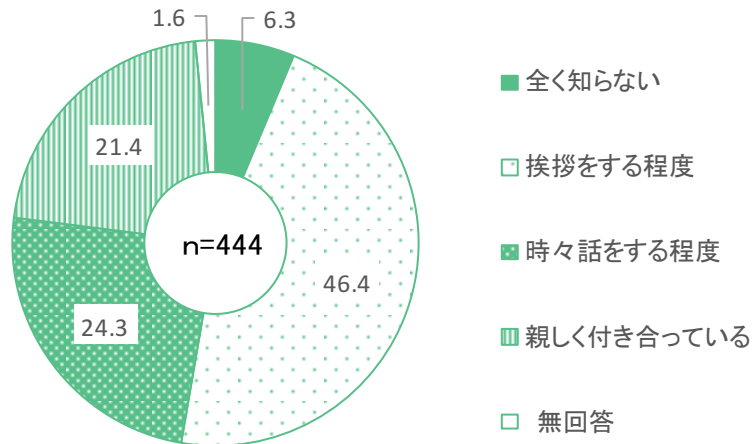


## 6 日常生活について

## 問 23 あなたの周りに住んでいる日本人とどのくらい付き合いがありますか？

- ・地域の日本人との付き合いは、「挨拶をする程度」(46.4%) が最も多く、次いで「時々話をする程度」(24.3%)、「親しく付き合っている」(21.4%) の順となっています。

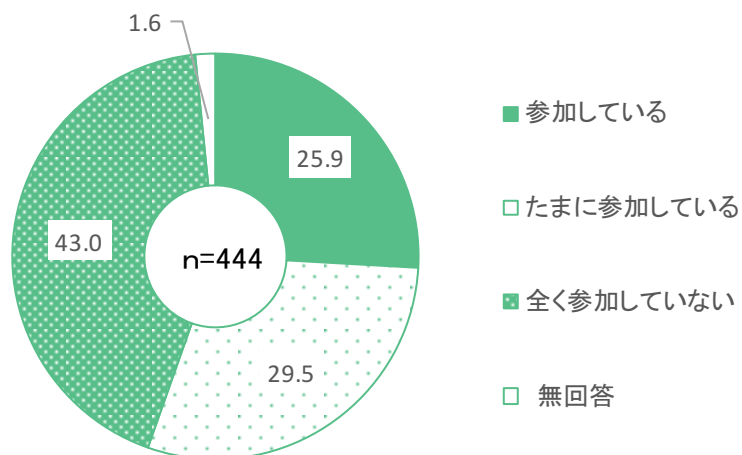
図表 23 地域の日本人との付き合い



## 問 24 町内のお祭りや清掃活動など、地域の行事に参加していますか？

- ・地域の行事への参加は、約4割(43.0%)が「全く参加していない」(43.0%)と回答しています。

図表 24 地域の行事への参加

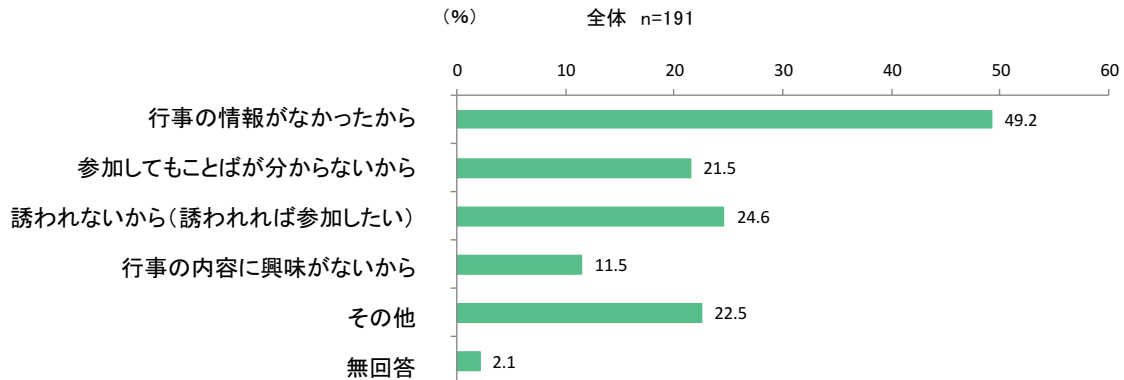


問 25 地域の行事に参加しない理由は何ですか？（複数回答）

※問 24 で「全く参加していない」と回答した方のみ

- ・地域の行事に参加しない理由は、約 5 割（49.2%）が「行事の情報がなかったから」と回答しています。

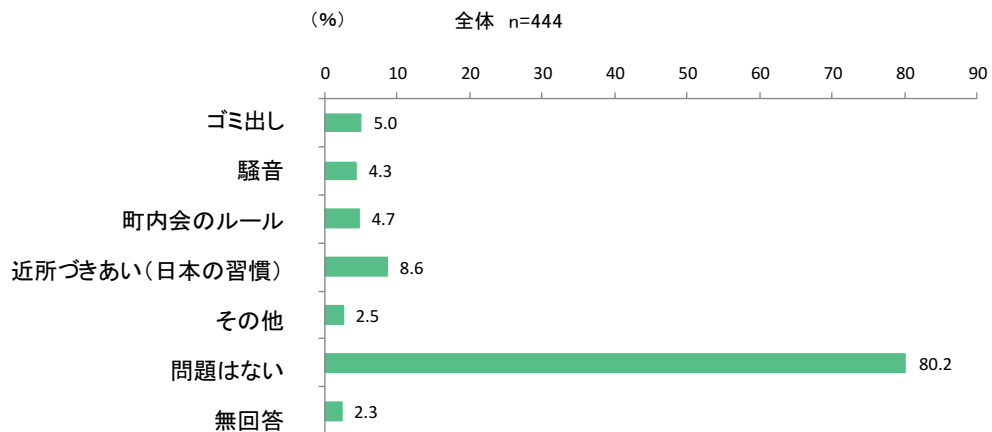
図表 25 地域の行事に参加しない理由



問 26 あなたの周りに住んでいる日本人と生活上どんな問題がありますか？（複数回答）

- ・地域の日本人との問題は、「近所づきあい（日本の習慣）」(8.6%) や「ゴミ出し」(5.0%) がある。一方で、「問題はない」は 80.2% と最も高くなっています。

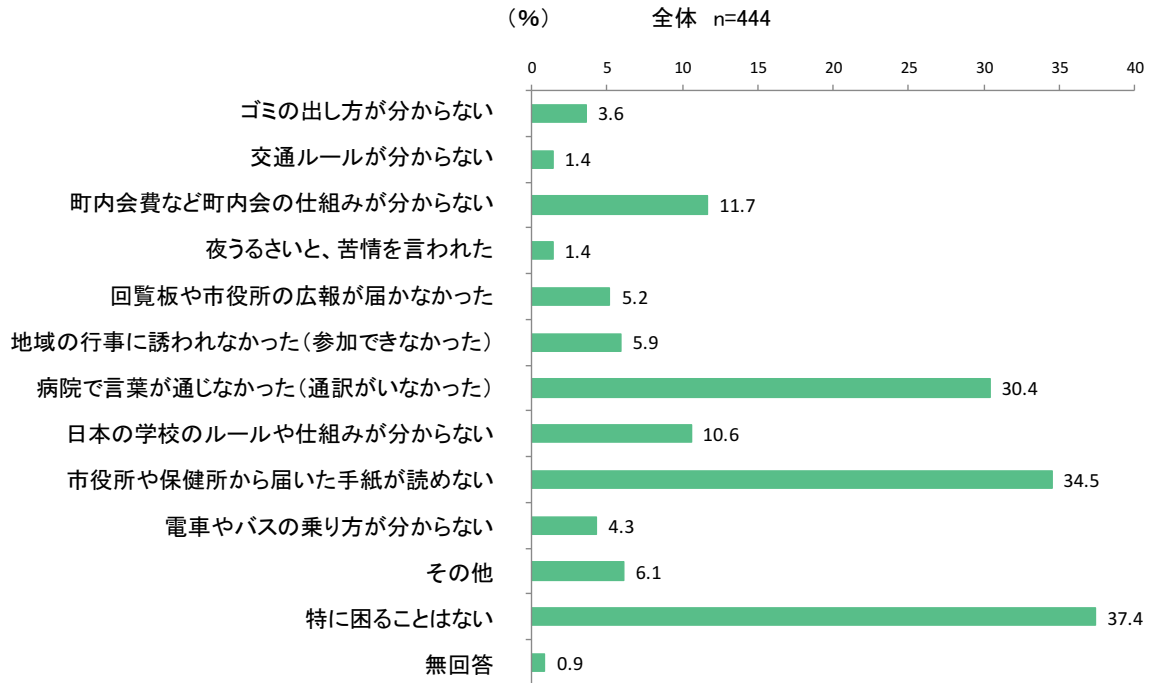
図表 26 地域の日本人との問題



## 問 27 日常生活で、特に困ったことは何ですか？（複数回答）

- ・日常生活で困ったことは、「市役所などから届いた手紙が読めない」（34.5%）や「病院で言葉が通じなかった（通訳がいなかった）」（30.4%）がある。一方で、「特に困ることはない」は37.4%と最も高くなっています。

図表 27 日常生活で困ったこと

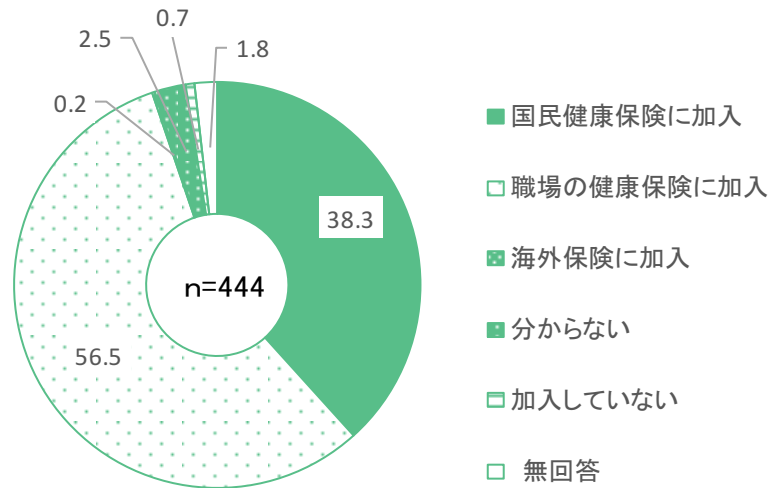


## 7 健康保険と年金について

### 問 28 健康保険に加入していますか？

・健康保険の加入状況は、「職場の健康保険」(56.5%)が最も多く、次いで「国民健康保険」(38.3%)の順となっています。

図表 28 健康保険の加入状況



### 問 29 健康保険に加入していない理由は何ですか？

※問 28 で「加入していない」と回答した方のみ

・健康保険に加入しない理由は、回答した 3 名全員が「その他」と回答しています。

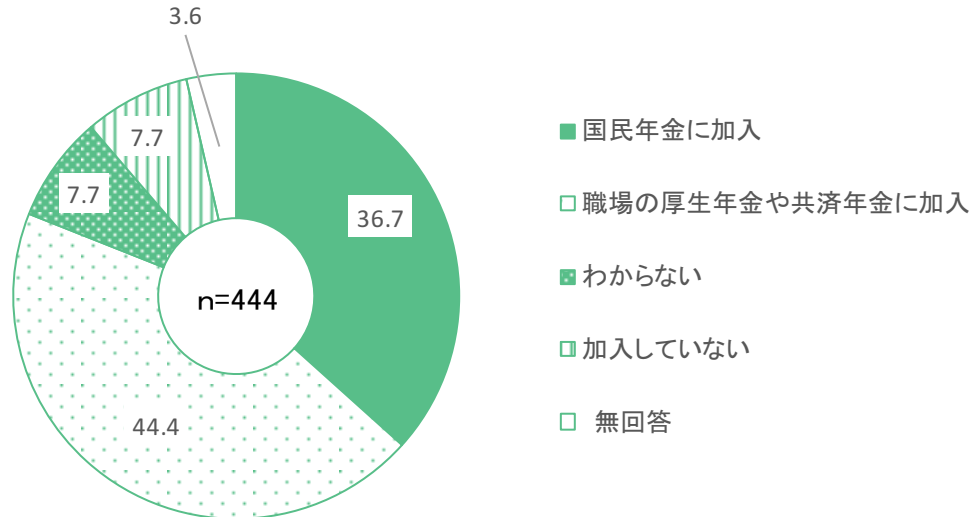
図表 29 健康保険に加入しない理由

	n=3 (件)
制度を知らなかった	0
内容がよく分からない	0
保険料が払えない	0
加入する必要がないと思っている	0
その他	3

問 30 年金に加入していますか？

- 年金の加入状況は、「職場の厚生年金や共済年金に加入」（44.4%）が最も多く、次いで「国民年金に加入」（36.7%）の順となっています。

図表 30 年金の加入状況

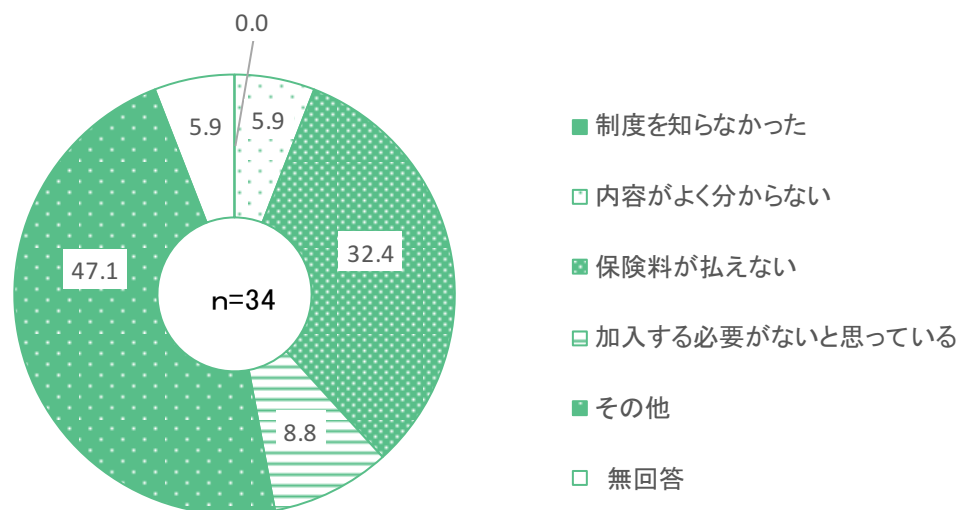


問 31 加入していない理由は何ですか？

※問 30 で「加入していない」と回答した方のみ

- 年金未加入の理由は、「その他」（47.1%）が最も多く、次いで「保険料が払えない」（32.4%）、「加入する必要があると思っている」（8.8%）の順となっています。

図表 31 年金未加入の理由



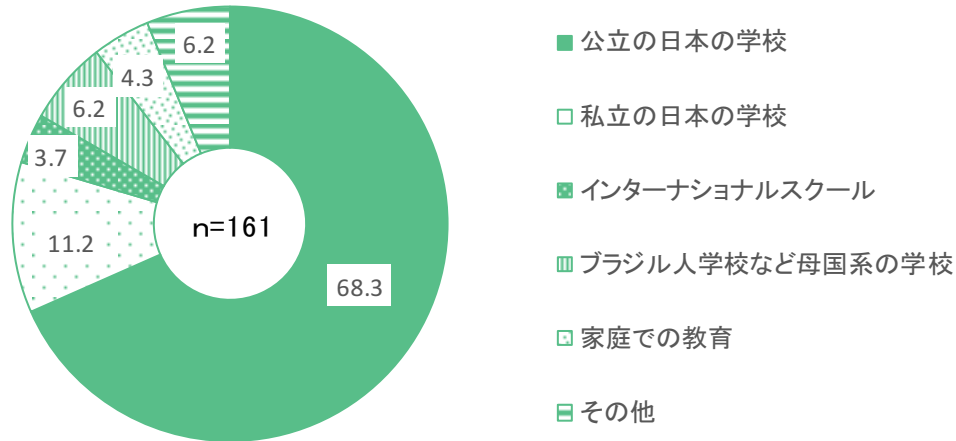
## 8 教育・子育て・家族について

問 32 あなたの子どもが通っている学校は、次のどれですか？

※15歳以下の子どもがいる方のみ

- ・子どもの学校の種類は、「公立の日本の学校」(68.3%)が最も多く、次いで「私立の日本の学校」(11.2%)、「ブラジル人学校などの母国系の学校」(6.2%)と「その他」(6.2%)の順となっています。

図表 32 子どもの学校の種類

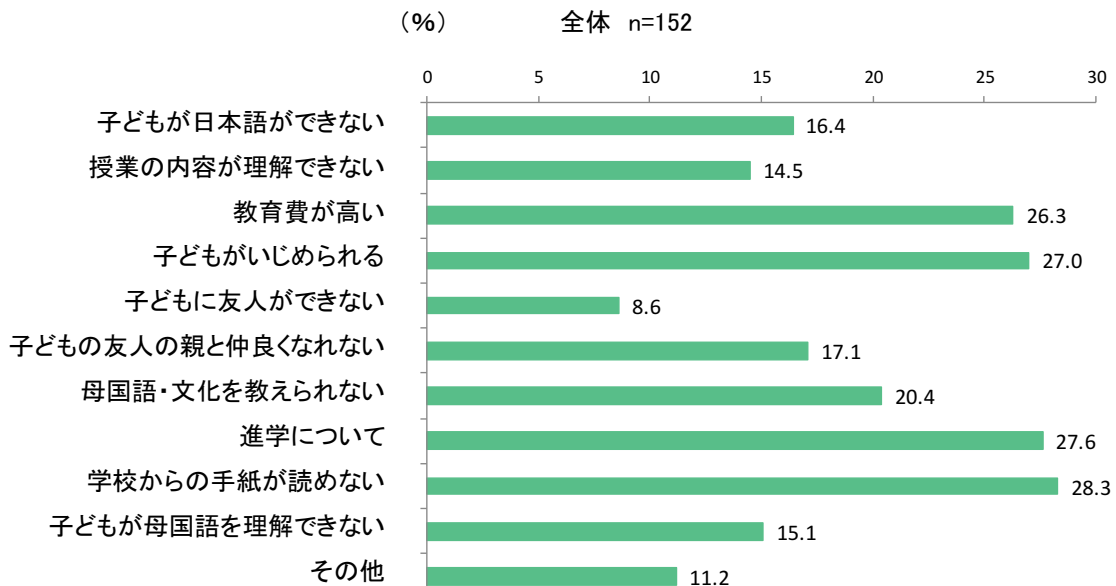


問 33 あなたの子どもの教育について、心配していることは何ですか？（複数回答）

※15歳以下の子どもがいる方のみ

- ・教育に関する心配は、「学校からの手紙が読めない」(28.3%)が最も多く、次いで「進学について」(27.6%)、「子どもがいじめられる」(27.0%)の順となっています。

図表 33 教育に関する心配





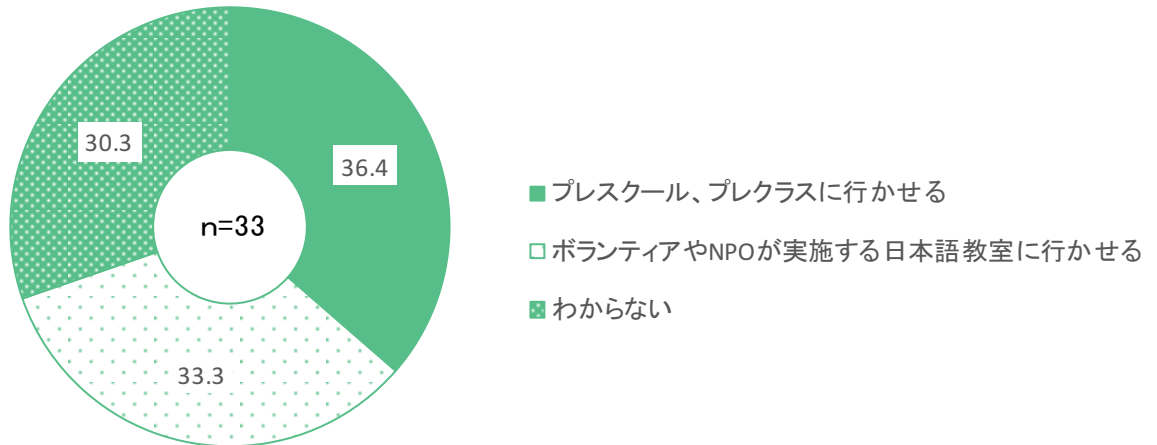
問 34 それに対して何をしていますか？

※問 33 で「子どもが日本語ができない」又は「授業の内容が理解できない」と回答した方のみ

※15 歳以下の子どもがいる方のみ

- ・対応策は、「プレスクール、プレクラスに行かせる」(36.4%) が最も多く、次いで「ボランティアやNPO が実施する日本語教室に行かせる」(33.3%)、「わからない」(30.3%) の順となっています。

図表 34 対応策

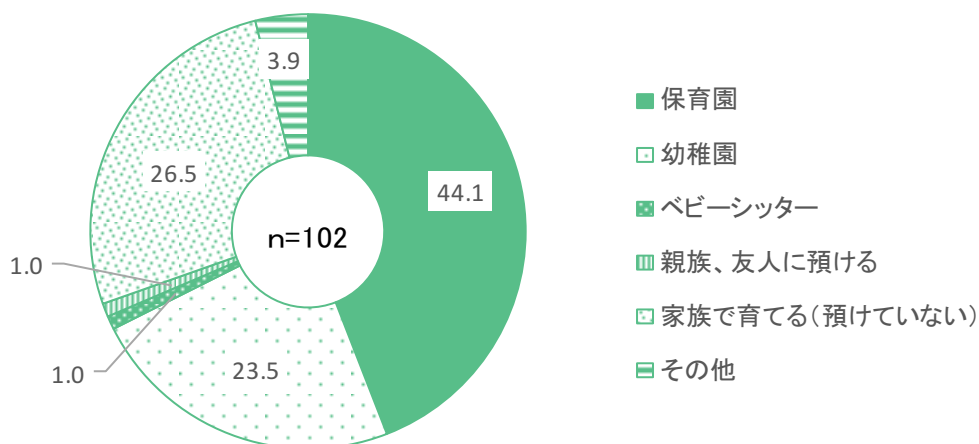


問 35 子どもを昼間どこへ預けていますか？

※5 歳以下の子どもがいる方のみ

- ・子どもの預け先は、「保育園」(44.1%) が最も多く、次いで「家族で育てる(預けていない)」(26.5%)、「幼稚園」(23.5%) の順となっています。

図表 35 子どもの預け先

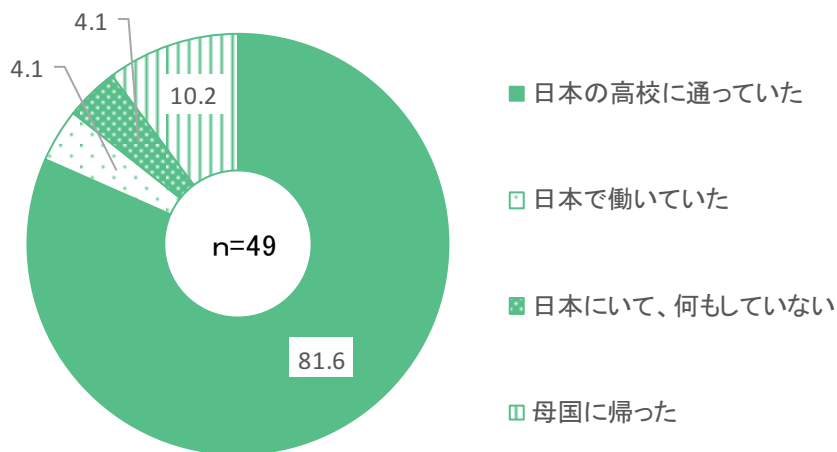


問 36 あなたの子どもは 16 歳から 18 歳の間、何をしていましたか？

※1997 年 4 月 2 日以降に生まれた子どもがいる方のみ

- ・子どもがしていたことは、「日本の高校に通っていた」(81.6%) が最も多く、次いで「母国に帰った」(10.2%) の順となっています。

図表 36 16 歳から 18 歳の間、子どもがしていたこと

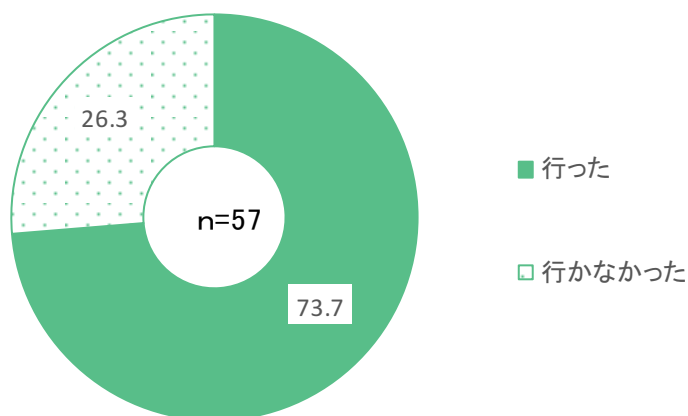


問 37 あなたの子どもは日本の学校に行きましたか？

※1997 年 4 月 2 日以降に生まれた子どもがいる方のみ

- ・日本の高校への進学は、7 割以上 (73.7%) が「行った」と回答しています。

図表 37 日本の高校への進学



問 38 あなたの子どもが日本の高校に行かなかった理由は何ですか？

※問 37 で「行かなかった」と回答した方のみ

- ・日本の高校に進学しなかった理由は、「その他」（6件）が最も多く、次いで「子どもが母国に帰ったから」（4件）の順となっています。

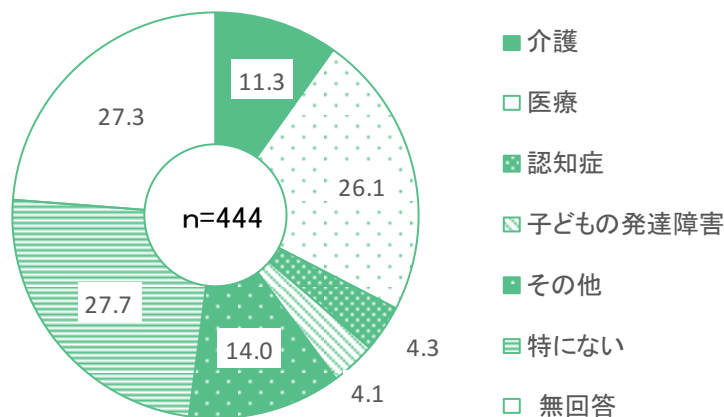
図表 38 日本の高校に進学しなかった理由

	n=15	(件)
子どもを高校に行かせるお金がなかったから	1	1
子どもの日本語能力または学力がなかったから	0	0
子ども自身が働くことを望んだから	1	1
子どもは高校に行かなくても十分生きていけると私が考えたから	0	0
日本の中学校を卒業していないから	1	1
子どもが母国に帰ったから	4	4
その他	6	6
無回答	2	2

問 39 あなた自身や家族に対して心配していることは何ですか？（複数回答）

- ・心配していることは、「特にない」（27.7%）が最も多く、次いで「医療」（26.1%）、「その他」（14.0%）の順となっています。

図表 39 心配していること

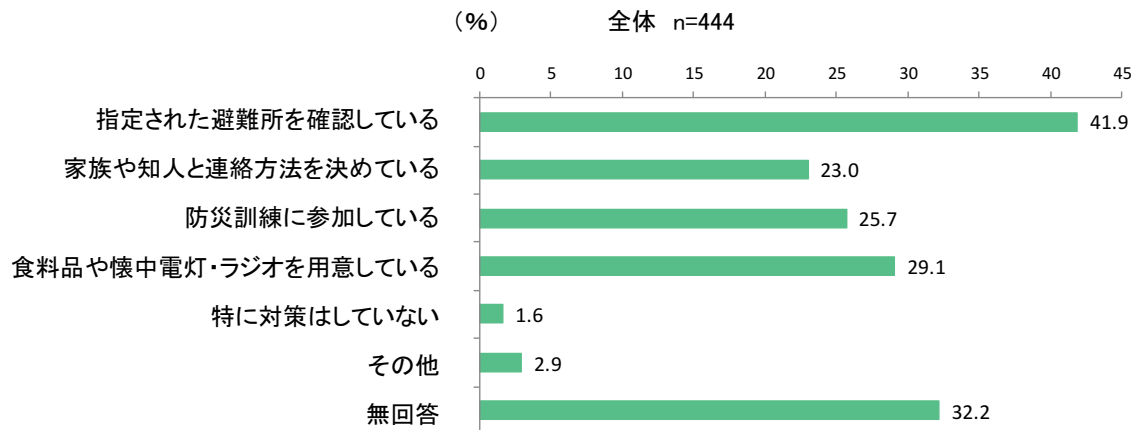


## 9 防災について

### 問 40 地震や大雨などの災害に対する対策をしていますか？（複数回答）

- ・災害への備えは、「指定された避難場所を確認している」（41.9%）が最も多く、次いで「食料品や懐中電灯・ラジオを用意している」（29.1%）、「防災訓練に参加している」（25.7%）の順となっています。

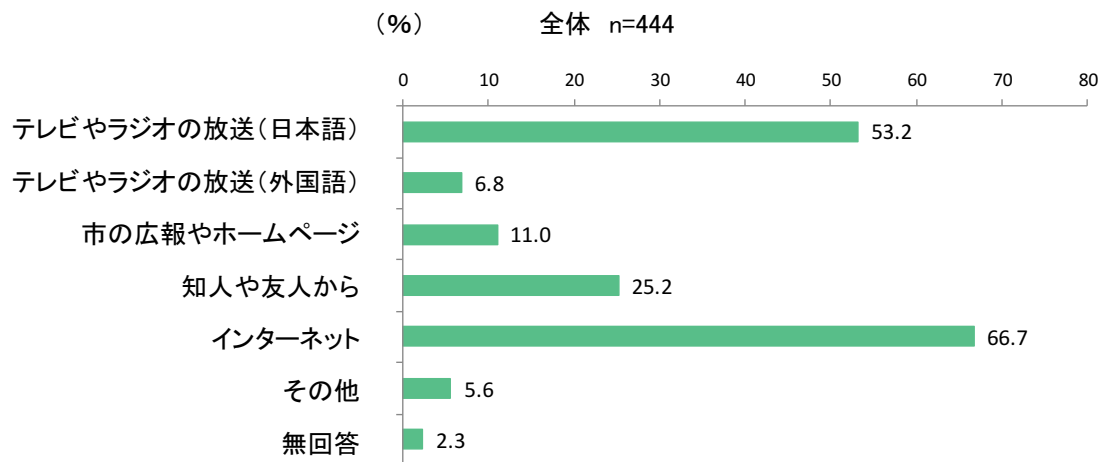
図表 40 災害への備え



### 問 41 地震や大雨などの災害発生の情報はどこから入手しますか？（複数回答）

- ・災害情報の入手先は、「インターネット」（66.7%）が最も多く、次いで「テレビやラジオの放送（日本語）」（53.2%）、「知人や友人から」（25.2%）の順となっています。

図表 41 災害情報の入手先



## 10 コミュニティ通訳員について

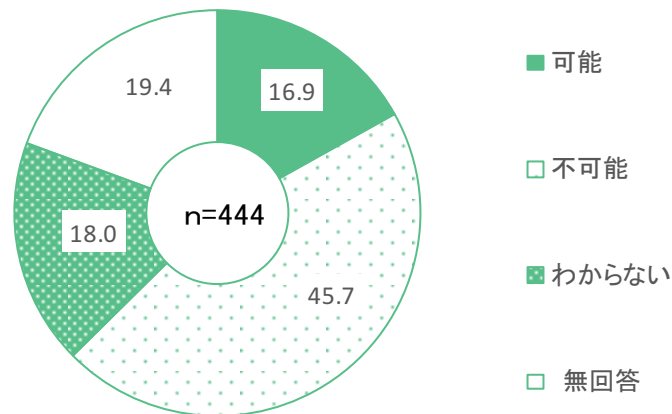
## 問 42 コミュニティ通訳員になってもらうことはできますか？

※コミュニティ通訳員

外国人が住んでいる地域で、地元の総代（自治会長）など日本人が外国人とコミュニケーションを図るときに、通訳としてお手伝いしてもらう地域の通訳員。

- ・コミュニティ通訳員への協力は、4割以上（45.7%）が「不可能」と回答しています。一方で、16.9%が「可能」と回答して、関心があることが分かります。

図表 42 コミュニティ通訳員への協力



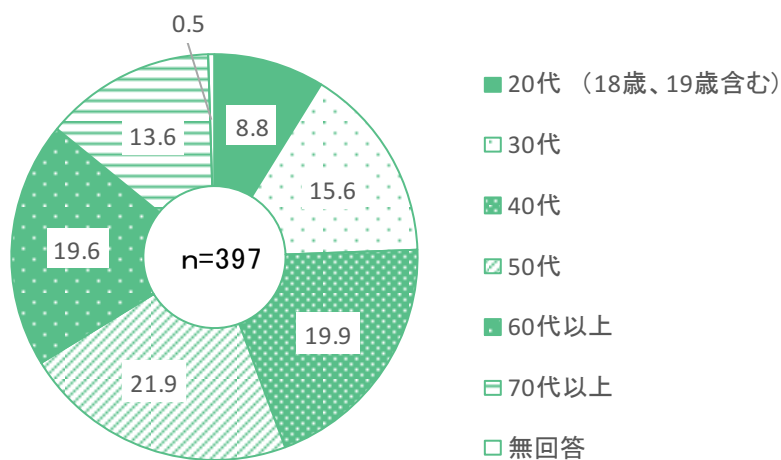
## Ⅳ 日本人市民の調査結果

### 1 回答者の属性

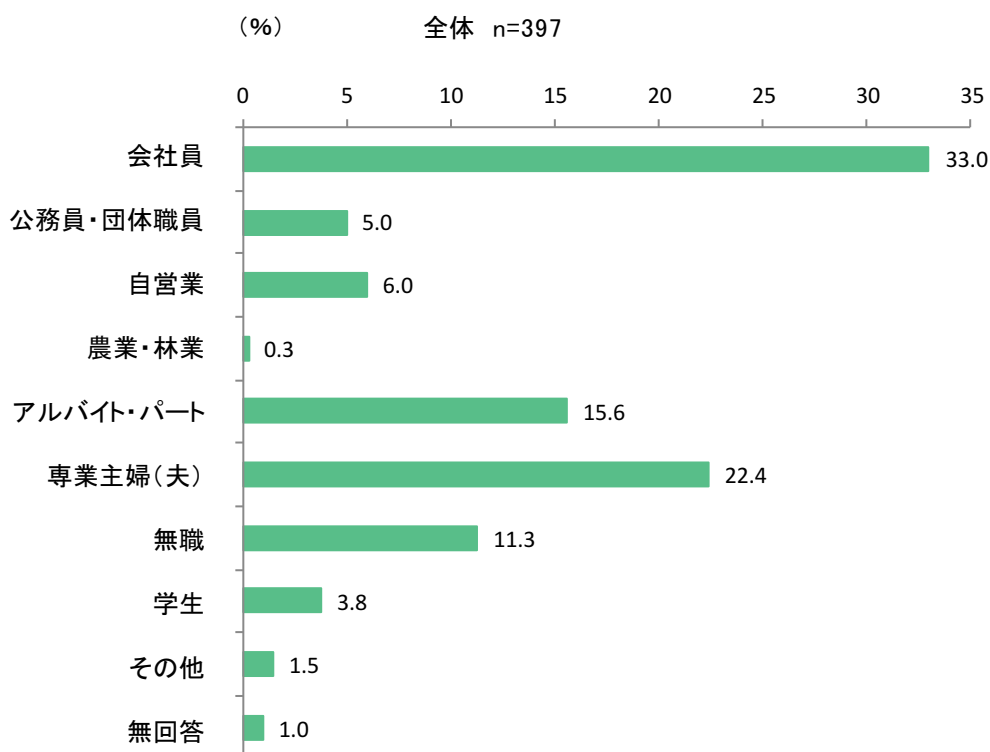
問1 年齢 問2 職業 問3 居住地

- ・年齢は、各年代ほぼ同じ割合となっています。
- ・職業は、「会社員」(33.0%)が最も多く、次いで「専業主婦(夫)」(22.4%)、「アルバイト・パート」(15.6%)の順となっています。
- ・居住地は、「中央」(28.7%)が最も多く、次いで「南部」(20.2%)、「矢作」(12.6%)の順となっています。

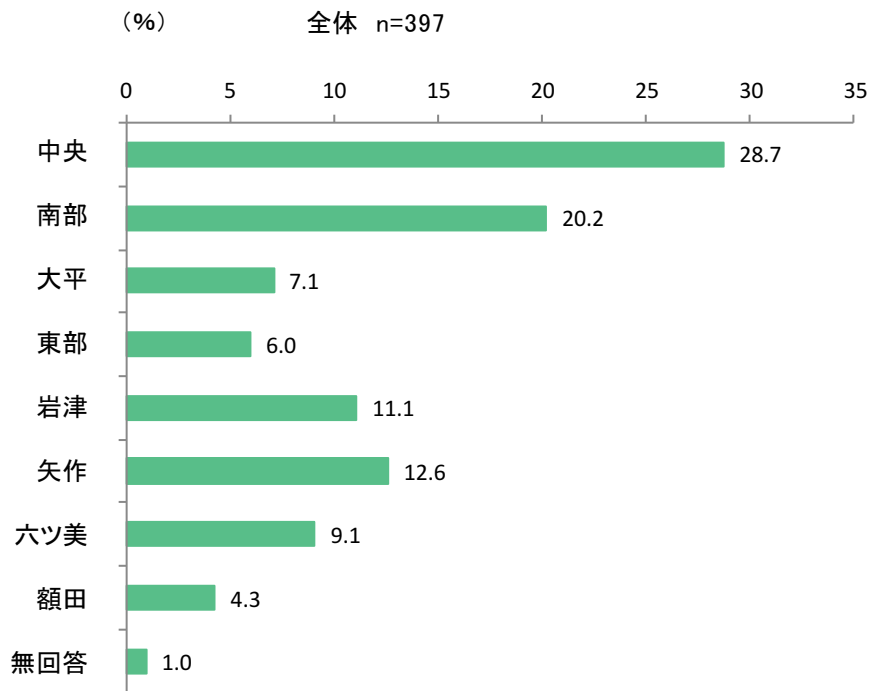
図表 1 年齢



図表 2 職業



図表 3 居住地



中央(下記以外)

南部(岡崎・羽根・小豆坂・城南・福岡・上地学区)

大平(男川・美合・緑丘・秦梨・生平学区)

東部(竜谷・藤川・山中・本宿学区)

岩津(岩津・大樹寺・大門・恵田・細川・奥殿学区)

矢作(矢作東・矢作南・矢作西・矢作北・北野学区)

六ツ美(六ツ美中部・北部・南部・西部学区)

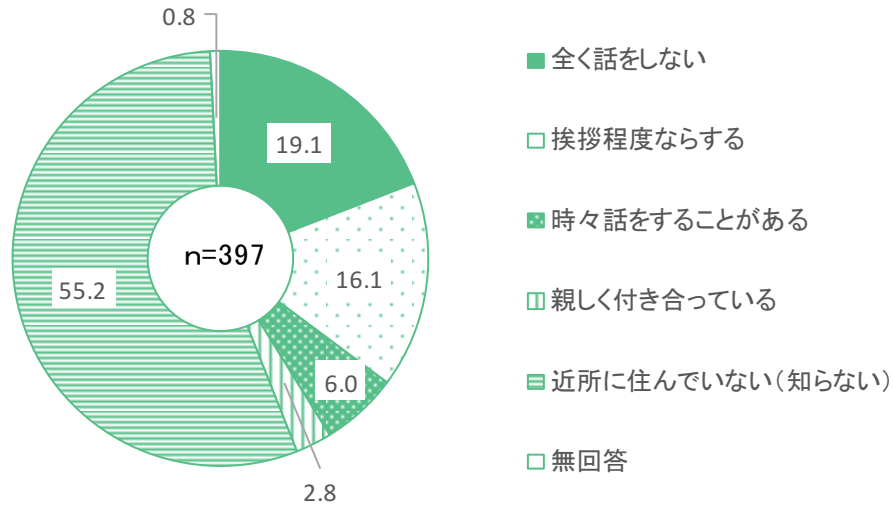
額田(夏山・豊富・宮崎・形埜・下山学区)

## 2 外国人市民との共生について

### 問4 近所に住んでいる外国人とどのような付き合いがありますか？

- ・地域の外国人との付き合いは、5割以上（55.2%）が「近所に住んでいない（知らない）」と回答しています。

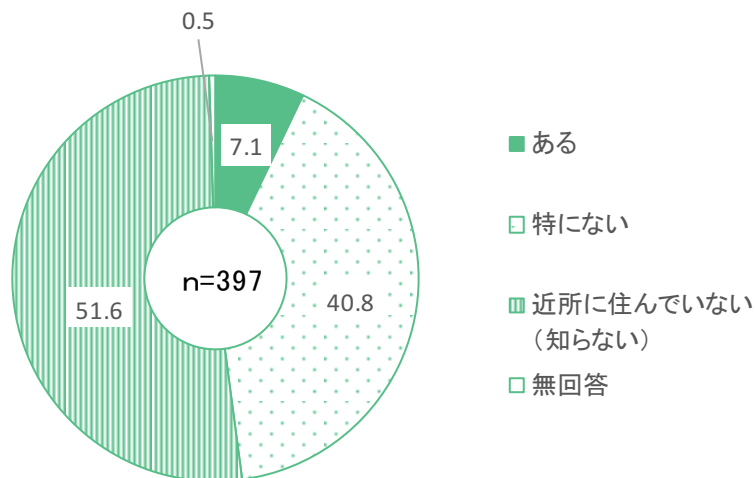
図表 4 地域の外国人との付き合い



### 問5 あなたのお住まいの地域で外国人とのトラブルがありますか？

- ・地域の外国人とのトラブルは、約5割（51.6%）が「近所に住んでいない（知らない）」、約4割（40.8%）が「特にない」と回答しています。

図表 5 地域の外国人とのトラブル



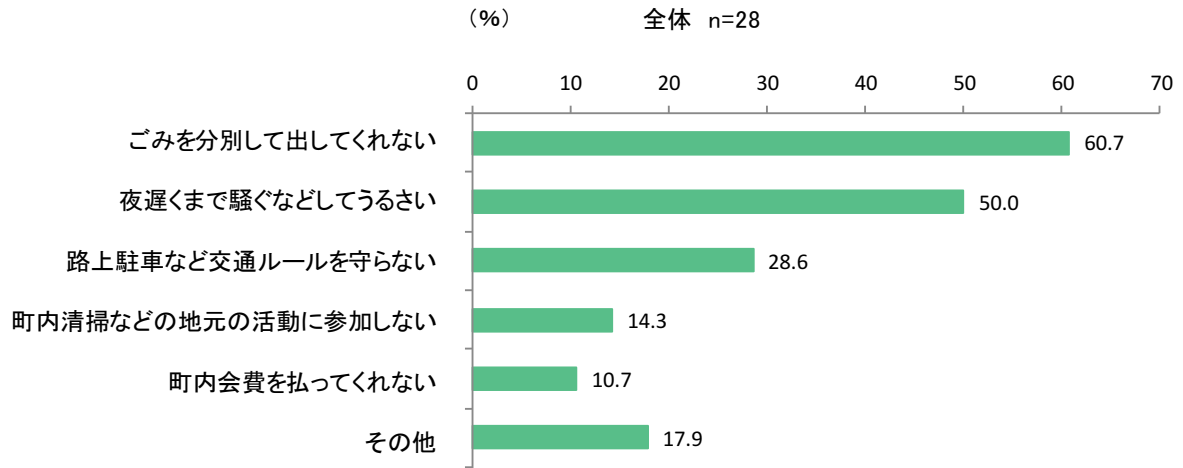


## 問6 地域の外国人とどのようなトラブルがありましたか？（複数回答）

※問5で「ある」と回答した方のみ

- ・トラブルの内容は、「ごみを分別して出してくれない」（60.7%）が最も多く、次いで「夜遅くまで騒ぐなどしてうるさい」（50.0%）、「路上駐車など交通ルールを守らない」（28.6%）の順となっています。

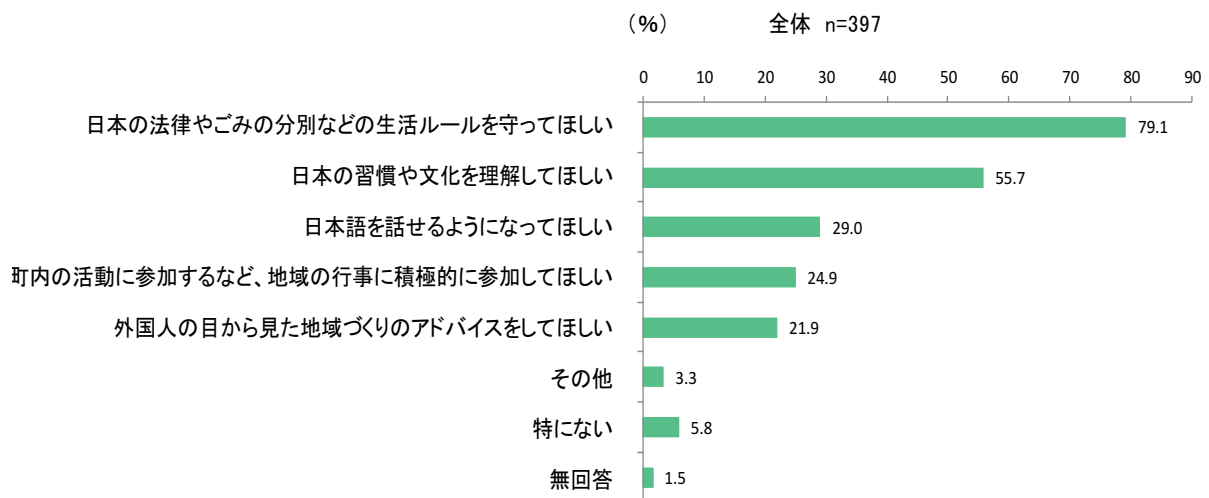
図表 6 トラブルの内容



## 問7 地域で暮らす外国人にどのようなことを期待しますか？（複数回答）

- ・外国人に期待することは、「日本の法律やごみの分別などの生活ルールを守ってほしい」（79.1%）が最も多く、次いで「日本の習慣や文化を理解してほしい」（55.7%）、「日本語を話せるようになってほしい」（29.0%）の順となっています。

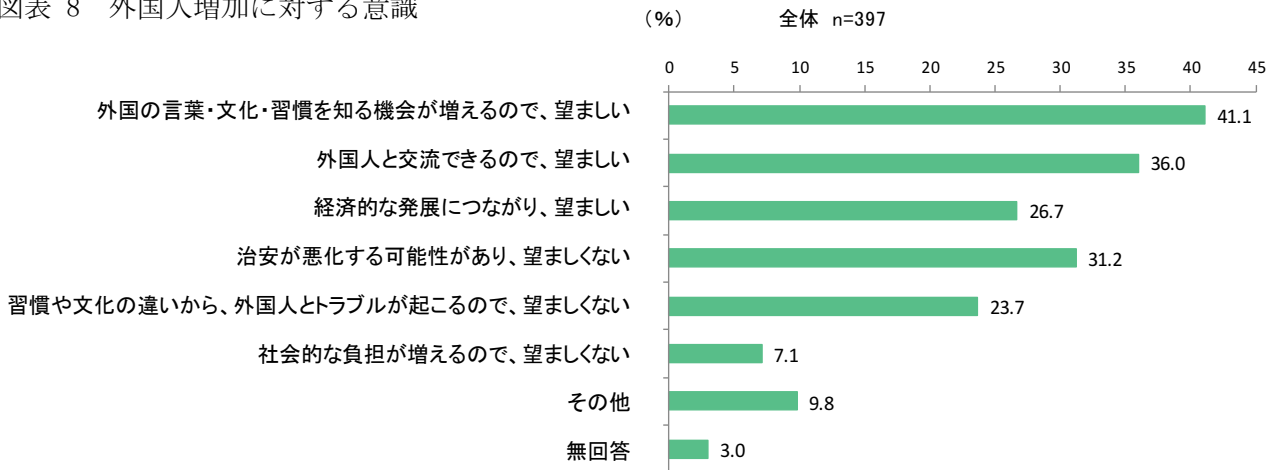
図表 7 外国人に期待すること



問 8 岡崎市に在住する外国人が増えることに対してどう思いますか？（複数回答）

- ・外国人増加に対する意識は、「外国の言葉・文化・習慣を知る機会が増えるので、望ましい」（41.1%）が最も多く、次いで「外国人と交流できるので、望ましい」（36.0%）、「治安が悪化する可能性があり、望ましくない」（31.2%）の順となっています。
- ・「望ましい」割合は「望ましくない」割合よりも多くなっています。

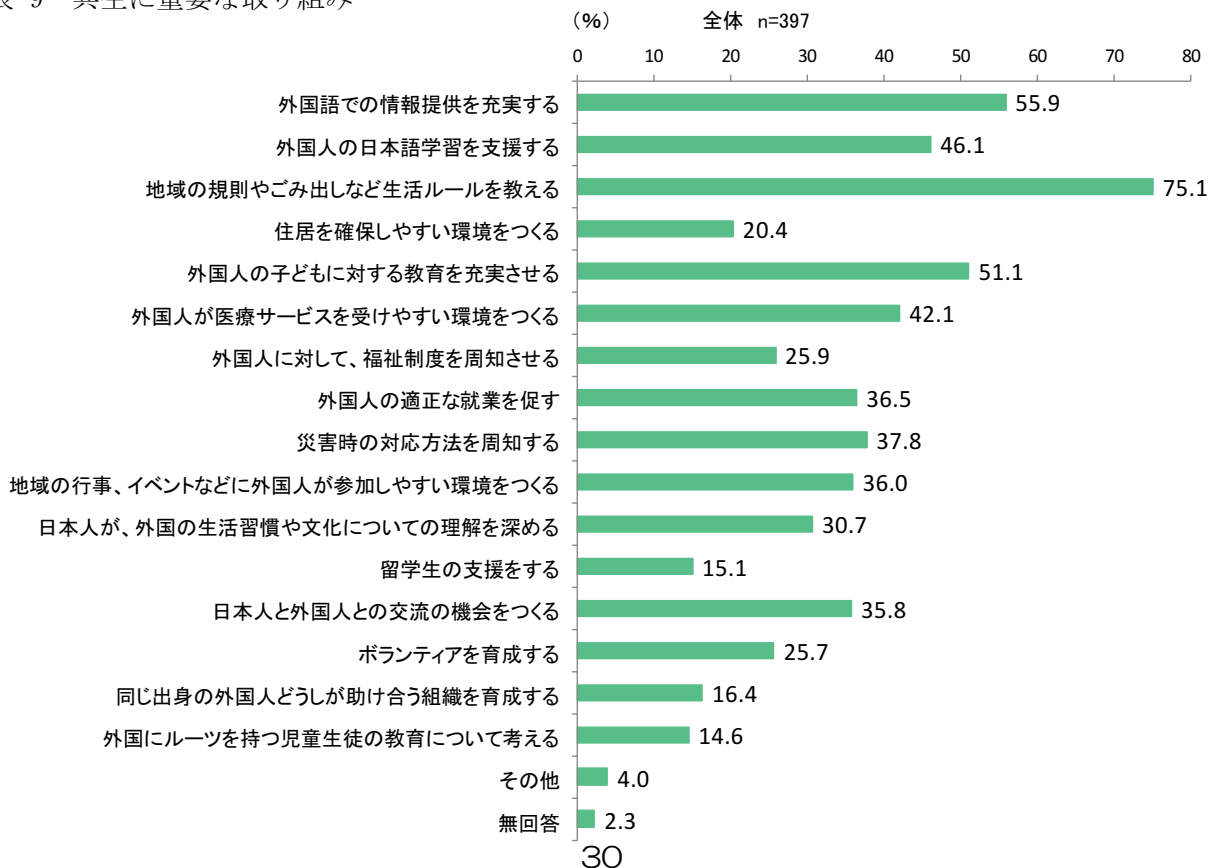
図表 8 外国人増加に対する意識



問 9 日本人と外国人との円滑な共生を推進していくためには、どのようなとりくみが重要だと思いますか？（複数回答）

- ・共生に重要な取り組みは、「地域の規則やごみ出しなど生活ルールを教える」（75.1%）が最も多く、次いで「外国語での情報提供を充実する」（55.9%）、「外国人の子どもに対する教育を充実させる」（51.1%）の順となっています。

図表 9 共生に重要な取り組み

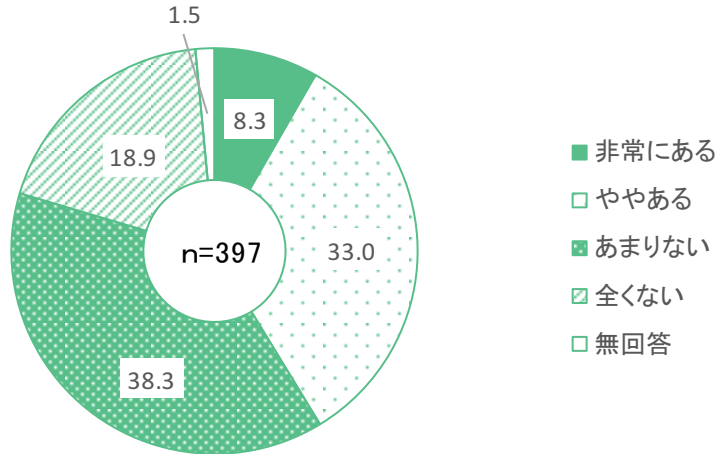


### 3 国際理解について

問 10 ホームステイや外国人との交流イベントなど国際交流に関心がありますか？

- ・国際交流への関心は、「あまりない」(38.3%) が最も多く、次いで「ややある」(33.0%)、「全くない」(18.9%) の順となっています。

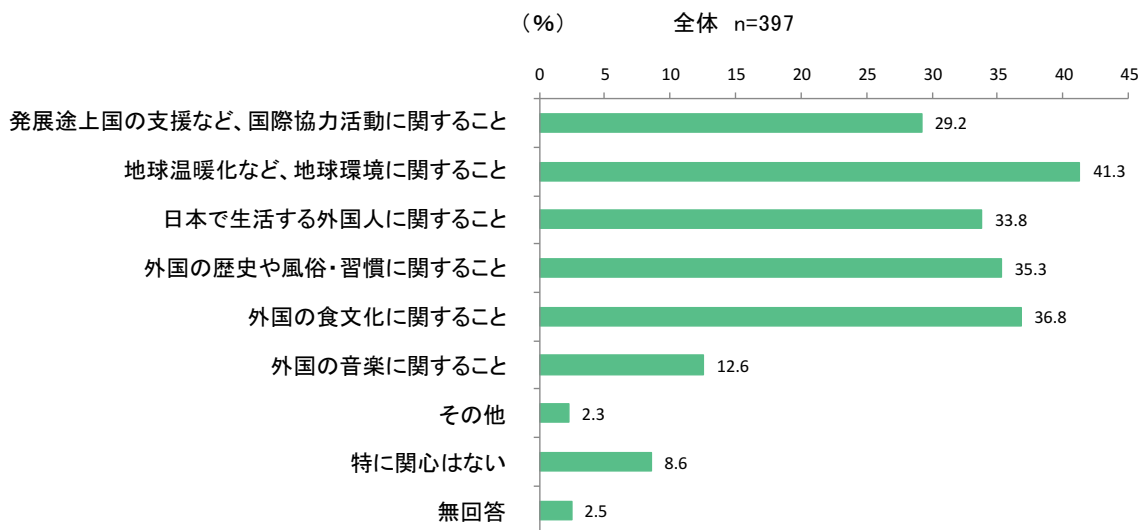
図表 10 国際交流への関心



問 11 国際情勢や外国の文化などに関する事で、どのようなことに関心をもっていますか？  
(複数回答)

- ・関心のある分野は、「地球温暖化など、地球環境に関する事」(41.3%) が最も多く、次いで「外国の食文化に関する事」(36.8%)、「外国の歴史や風俗・習慣に関する事」(35.3%) の順となっています。

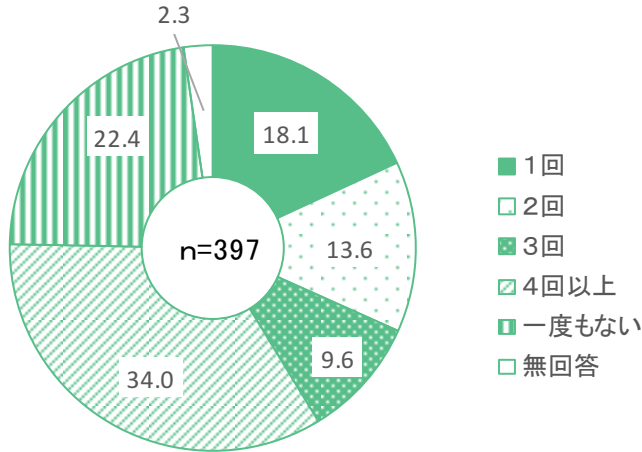
図表 11 関心のある分野



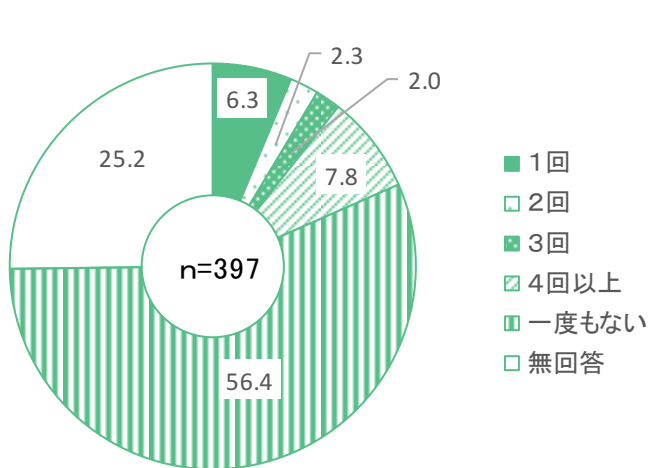
問 12 何回海外へ行った経験がありますか。目的別に回数をお答えください。

- ・観光目的では、「4回以上」(34.0%)が最も多く、次いで「一度もない」(22.4%)、「1回」(18.1%)、「2回」(13.6%)の順となっています。
- ・仕事目的では、5割以上(56.4%)が「一度もない」と回答しています。
- ・留学やホームステイ目的では、6割以上(65.0%)が「一度もない」と回答しています。

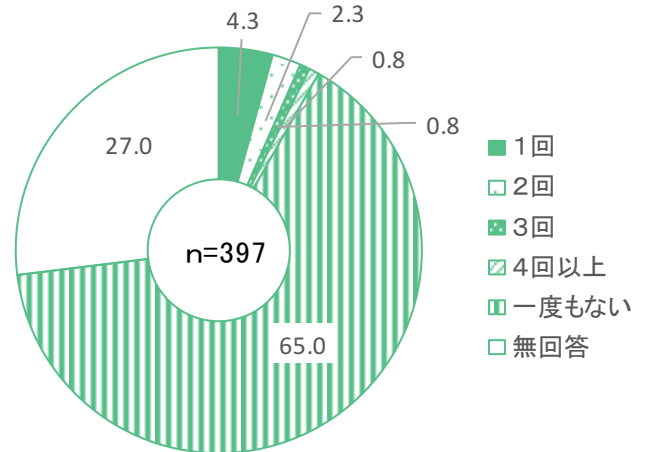
図表 12-1 渡航経験（観光）



図表 12-2 渡航経験（仕事）



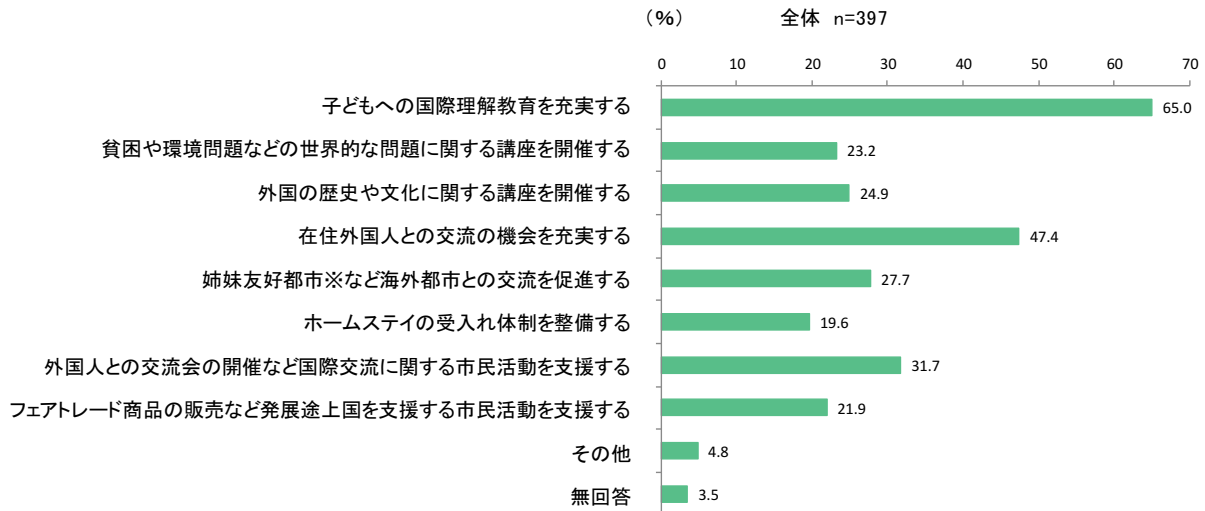
図表 12-3 渡航経験（留学・ホームステイ）



問 13 岡崎市民の国際理解の増進を図るためには、どのようなとりくみが重要だと思いますか？  
(複数回答)

- ・国際理解に重要な施策は、「子どもへの国際理解教育を充実する」(65.0%)が最も多く、次いで「在住外国人との交流の機会を充実する」(47.4%)、「外国人との交流会の開催など国際交流に関する市民活動を支援する」(31.7%)の順となっています。

図表 13 国際理解に重要な施策



国際化推進基礎調査業務 調査結果報告書

岡崎市

令和元年 12 月

岡崎市役所 社会文化部 国際課

愛知県岡崎市十王町 2 丁目 9 番地

TEL : 0564-23-6656 FAX : 0564-23-6667